

2012 年度報告書（研究員）

氏 名	鈴木 大介
職 位	GCOE 研究員（短時間）
<p>研究概要</p> <p>前年度に引き続き、類義表現の意味機能の相違について、法副詞の生起環境の特性に着目し、研究を進めた。どのような法副詞に、どのような要因が強い影響を及ぼしているのかを考察するために、節の中での分析にとどまらず、節を超えた観点にも着目し、複眼的視座からの機能分析を試みた。今年度は具体的に[1]言語変化、[2]談話という 2 つの観点から法副詞の機能を明らかにした。まず、[1]の観点から、文法化・主観化という言語の動的な側面に着目し、類義語間の意味・機能の相違を実証した。法副詞の中には、従来の認識的な意味を越えて、話し手と聞き手の間で解釈されるという、間主観性の文脈で使用される表現があるということがわかった。これらの結果に基づいて、同じ法副詞でも（間）主観化の速度が異なっていることを主張し、言語変化における法副詞の差異を具体的に示した。次に、[2]の観点から「法副詞の生起位置」と「主語の定性」という節を超えた、2 つの談話的な要因に着目した。この 2 要因それぞれが法副詞の選択と因果関係にあるということ、さらには、この 2 要因が交互作用により法副詞の使用に影響を及ぼしていることを検証するため、実験的手法を導入した。結果として、各要因単独での影響や 2 要因の組み合わせによる効果が得られ、法副詞の選択が談話的な要因と密接に関わっていることを示した。従来のコーパス分析に加えて、実験的手法による分析の導入によって、より実証的な研究が可能となり、方法論的な貢献も行ったと言える。今後は他の法副詞にも分析対象を広げ、より大きな一般化を目指すと同時に、他の観点からも総合的に扱うことを目指していく。</p>	
<p>業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）</p> <p>【論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “A Corpus-based Study of Modal Adverbs in English from the Viewpoint of Grammaticalization”, <i>Token: A Journal of English Linguistics</i> 1. Forthcoming. ・ <u>Suzuki, Daisuke</u> & Takashi Fujiwara. “Discourse Effects on the Choice of Modal Adverbs in English”, in Antonis Botinis (ed.) <i>Proceedings of the 5th ISEL Conference on Experimental Linguistics</i>, pp. 117-120. 2012. <p>【その他（海外学会発表）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>Suzuki, Daisuke</u> & Takashi Fujiwara. “Discourse Effects on the Choice of Modal Adverbs in English”, The 5th ISEL Conference on Experimental Linguistics (ExLing 2012), poster presentation, Athens, Greece, August 27-29, 2012. ・ “A Corpus-based Approach to the Modal Adverbs <i>Certainly</i> and <i>Definitely</i> from the Viewpoints of Epistemicity and Discourse”, International Conference on Modality · Corpus · Discourse, paper presentation, Lund University, Sweden, June 7-8, 2012. 	